

JA全厚連情報

(毎月 1日 発行)

No.1115 2022年5月1日

目 次

□ ナッジ理論を活用した健診受診率向上等について研修 健診取組情報連絡会をWEB開催	1
□ 経営幹部が知るべき経営知識について研修 病院経営セミナーをWEB開催	2
□ JA富山厚生連の佐野会長などが受章 令和4年春の叙勲・褒章	3
・通信員だより	
在宅療養支援診療所を開所（白河厚生総合病院）	4
白河厚生総合病院附属高等看護学院入学式開催（白河厚生総合病院附属高等看護学院）	5
茨城100kウルトラマラソンin鹿行にスタッフ派遣（土浦協同病院なめがた地域医療センター）	6
茨城県生協連よりマスクの提供（JA茨城県厚生連）	7
Bリーグ会場でJAグループ茨城のPR活動（JA茨城県厚生連）	8
看護学生対象のインターンシップを開催（相模原協同病院）	9
特定行為研修修了式を開催（相模原協同病院）	10
県下JA役職員 約8,000名へ「職場接種」を実施（JA神奈川県厚生連）	11
令和5年度新採用事務職員事業説明会を開催（JA神奈川県厚生連）	12
最新PET-CTを導入しました（高岡病院）	13
JA静岡厚生連看護専門学校2校で入学式を執り行いました（厚生連看護専門学校・するが看護専門学校）	14
JAあいち海部職員組合より、寄付をいただきました（海南病院）	15
JA愛知厚生連WEBサイトをリニューアルしました（JA愛知厚生連）	16
中日新聞「リンクト」にJA愛知厚生連の取り組みが掲載されました（JA愛知厚生連）	17
大阪府への看護師派遣（鈴鹿中央総合病院）	18
JA伊勢女性部よりマスク120箱寄贈（JA三重厚生連）	19
南島メディカルセンター指定管理基本協定調印式（JA三重厚生連）	20
JAグループ兵庫の職域接種3回目実施（JA兵庫厚生連）	21
宮島ボートレース企業団より医療機器整備に対する寄付をいただきました（JA広島厚生連）	22
長尾省吾顧問が第42回農協人文化賞を受賞されました（JA香川厚生連）	23
「超音波診断装置4台・検診車両1台」受贈（JA熊本厚生連）	24



JA全厚連

全国厚生農業協同組合連合会

〒100-6827 東京都千代田区大手町1-3-1 J Aビル

TEL (03) 3212-8000 FAX (03) 3212-8008

E-Mail: shien@ja-zenkouren.or.jp

(経営支援グループ)

<http://www.ja-zenkouren.or.jp>

編集責任者 中村 純誠

ナッジ理論を活用した 健診受診率向上等について研修

健診取組情報連絡会をWEB開催

本会は3月15日、健診取組情報連絡会をWEBで開催し、26厚生連から106名が参加した。

本連絡会は、健診事業をとりまく情勢認識や、健診にかかる取組みについて共有し、各厚生連における取組みに活用いただくことを目的に開催し、当日は株式会社キャンサーズキャン顧問の竹林正樹氏から「ナッジ理論を活用した健診受診率向上および保健指導について」と題して講演いただいたのち、グループに分かれ情報交換を行った。

この中で竹林氏は「チラシなどでは情報を絞りシンプルにすることで相手の読むハードルを下げることが重要である」と述べ、相手が自発的に動くようになるナッジ理論について説明を行った。

その後、講演内容をふまえ、グループに分かれて情報交換を実施した。

参加者からは「今後の保健指導や受診率向上に役立てていきたい」「すぐに活用できる知識を楽しく学ぶことができた」「他の厚生連の取組みを聞くことができ、大変参考になった」等の感想が寄せられた。



竹林氏講演の様子



情報交換の様子

経営幹部が知るべき経営知識について研修

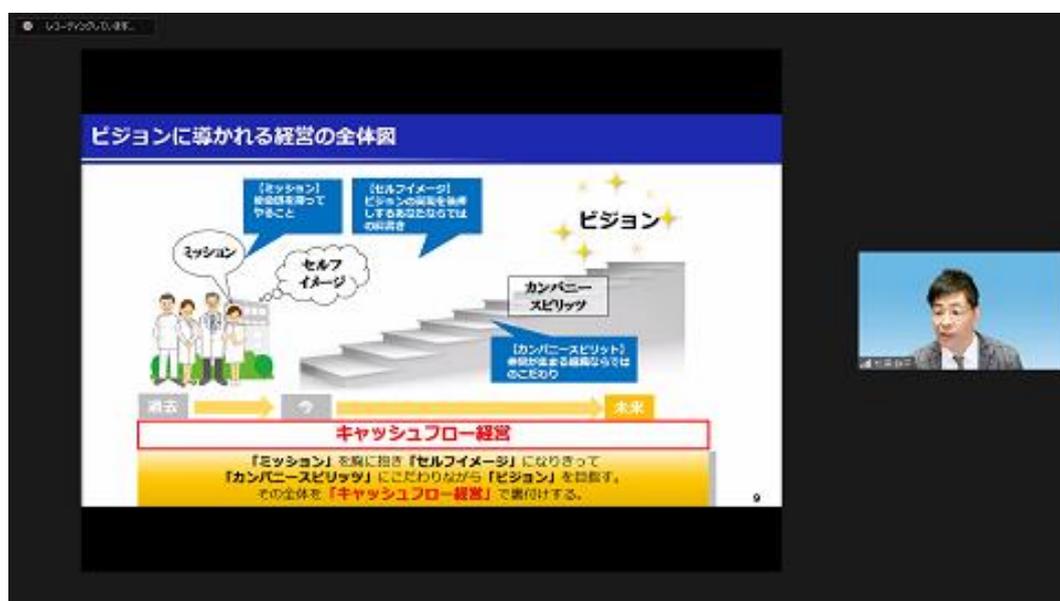
病院経営セミナーをWEB開催

本会は3月16日、病院経営セミナーをWEBで開催し、11厚生連から58名が参加した。

本セミナーは、病院経営に必要なマネジメント能力の向上、厚生連病院間の情報共有を図り、病院経営の改善に資することを目的に開催しており、当日はメディテイメント株式会社 代表取締役の杉浦鉄平氏を講師に迎え「明日から使える！経営幹部が知るべき経営知識」と題し講演・ケーススタディを行った。

この中で杉浦氏は「1枚の図で病院全体のお金の流れを俯瞰することができる『お金のブロックパズル』を活用することで、経営状況をビジュアルで理解することができる」と説明し、ワークを交えながらブロックパズルを活用したキャッシュフロー経営について講演した。

参加者からは「お金を通してビジョンまでの道のりが理解できた」「可視化できるため非常にわかりやすく、また、伝えやすいと感じた」等の感想が寄せられた。



杉浦氏講演の様子

J A 富山厚生連の佐野会長などが受章

令和4年春の叙勲・褒章

厚生労働省・農林水産省は4月29日、令和4年春の叙勲・褒章受章者を発表した。

J Aグループ・厚生連関係者で受章された方は以下のとおり。

賞 賜	主 要 経 歴	氏 名
旭日小綬章	現 富山県厚生農業協同組合連合会 経営管理委員会会長	さの ひでお 佐野 日出勇
旭日双光章	元 愛知県厚生農業協同組合連合会 経営管理委員会副会長	かわい かつまさ 河合 勝正
瑞宝双光章	現 山口県厚生農業協同組合連合会 常務理事 元 山口県厚生農業協同組合連合会 長門総合病院看護部長	うえだ さちこ 上田 幸子
瑞宝双光章	元 徳島県厚生農業協同組合連合会 麻植協同病院放射線科部次長	ばんどう まさとく 坂東 正十九





在宅療養支援診療所を開所

(JA福島厚生連・白河厚生総合病院)

JA福島厚生連（高久忠・代表理事理事長）は、4月1日に白河厚生総合病院（大木進司病院長）内の農村健診センターに在宅療養支援診療所を開所しました。白河市内の診療所と連携し、病院に通院が困難な患者に対し、医師が訪問して在宅診療を行うこととなります。

同日行われた開所式では、大木進司農村健診センター所長が「地域に根差し、地域が求める医療の提供に尽力していきたい。」とあいさつを述べ、鈴木和夫白河市長が「県南地域では在宅医療を担う医師が減少しており、24時間対応の当診療所の開設は心強い。」と祝辞を述べました。

当診療所では、管理者の緑川淳農村健診センター副所長を筆頭に、地域に根差した医療を行う医師の確保・育成等も踏まえ、併設の白河厚生総合病院から総合診療科医師3名の派遣を受け、交代で在宅診療を実施します。対象地域は福島県白河市、矢吹町、泉崎村、中島村、西郷村の5市町村と栃木県那須町。在宅診療の実施は火、水、木曜日の13時30分～17時。総合診療科医師3名が交代で担当し、夜間、休日は担当医が電話対応し、緊急往診が必要な場合は当番医が対応します。在宅看取り、24時間365日の連絡体制を確保し在宅診療を実施します。

地域住民が自宅等で療養し、自分らしい生活が最後まで出来るよう、福島県南医療圏の在宅医療に貢献していきます。



在宅療養支援診療所開所式の様子

(佐藤剛通信員)

白河厚生総合病院附属高等看護学院入学式開催

(JA福島厚生連・白河厚生総合病院附属高等看護学院)

白河厚生総合病院附属高等看護学院(前原和平学院長)の第62回入学式は4月7日、白河市の同学院講堂で行われた。来賓、教職員、保護者が見守る中、入学生27名(男子4名・女子23名)が入学を許可されました。

前原和平学院長が、「患者さんを元気づけ励ますことができるよう、自分の感情に左右されず、いつでも優しい笑顔と思いやりのある言葉遣いをする訓練をしてください。そして、たくさんの先生、先輩、友人に出会い、多くのものを学び吸収してください。」と式辞を述べました。高久忠JA福島厚生連代表理事理事長、大木進司白河厚生総合病院長、鈴木文子白河厚生総合病院看護部長がお祝いの言葉を贈り、在校生代表の白岩李菜さんが歓迎の言葉を述べました。

新入生代表の明珍つぐみさんが「今日のこの気持ちを忘れることなく、夢の実現に向け、仲間たちと切磋琢磨しながら自己啓発に努めてまいります。」と誓いの言葉を述べました。

入学生は看護師に必要な知識と技術を身に付ける3年間の学びのスタートをきりました。



前原学院長に誓いの言葉を述べる新入生代表

(佐藤剛通信員)

茨城 100k ウルトラマラソン in 鹿行に スタッフ派遣

(JA茨城県厚生連・土浦協同病院なめがた地域医療センター)

JA茨城県厚生連(酒井義法・代表理事理事長)の土浦協同病院なめがた地域医療センター(清水純一病院長)では、3月13日に行方市で開催された「第4回茨城100k ウルトラマラソン in 鹿行」にスタッフを派遣しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大で開催が危ぶまれましたが、エイドポイントへの看護師、理学療法士のほか、サイクルAED隊のボランティアにもスタッフを派遣し、徹底した感染症対策で開催にこぎつけることができました。

ナショナルサイクルルートにも指定されている「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が近いことから、自転車を趣味としているスタッフも多く、院内にはサイクリング部もあり、微力ながら大会運営に協力させていただきました。

幸いにも参加した約400名のランナーに大きな事故や怪我は無く、同隊は声援を送りながら100キロ以上の道のりを無事パトロールすることができました。

任務を終えたスタッフからは、「自分の趣味で大会運営に協力できるとは思っていませんでした。感染対策もしっかりしており、コロナ禍の中で開催にこぎ着けた大会関係者のご尽力と参加した皆さんのパワーにたくさんの元気をいただき、貴重な経験をさせていただきました。」との声が聞かれました。

今後もこのような活動を通し、地域の皆さまが安心して暮らしていただけるようなサポートを続けてまいります。



サイクルAED隊に参加した厚生連スタッフ

(酒井一彦通信員)

茨城県生協連よりマスクの提供

(J A茨城県厚生連)

J A茨城県厚生連（酒井義法・代表理事理事長）では、茨城県生活協同組合連合会（以下、茨城県生協連）より、新型コロナウイルス感染症に日々奮闘している医療従事者に対し感謝と応援を込めた支援物資として、使い捨てマスク及び手袋4,000枚ずつとN95マスク600枚が提供されました。

新型コロナウイルス感染症の発生から間もなく2年半が経過しますが、デルタ株、オミクロン株など新種の株が発生する度に感染拡大を繰り返し、未だ終息の兆しが見えず、予断を許さない状況が続いております。

茨城県生協連の鶴長義二会長理事は、「コロナ禍で懸命に業務を全うしている医療従事者の方々に大変感謝しています。マスクと手袋を活用していただくことで、J A茨城県厚生連の一助になれば幸いです。今後も応援していきます。」と話しました。

これに対し、J A茨城県厚生連の酒井義法代表理事理事長は、「日本で新型コロナウイルスの感染拡大が本格的になった2年前、マスクなどの医療物資は枯渇し、自分たちが手作りしたもので対応していました。現在は状況が改善されていますが、日々感染リスクと隣り合わせであり、常に感染予防の徹底を講じなければならない中で、今回の支援は非常にありがたく感じます。」と感謝の気持ちを述べました。

このような励ましを糧にして、J A茨城県厚生連は新型コロナウイルスへの対応も含め、地域医療の継続のために最大限努力してまいります。



左から、青木恭代副会長理事、酒井義法代表理事理事長、鶴長義二会長理事

(酒井一彦通信員)

Bリーグ会場でJAグループ茨城のPR活動

(JA茨城県厚生連)

プロバスケットボール男子1部リーグ（Bリーグ）における「茨城ロボッツ vs 千葉ジェッツ」戦が、4月2日、3日、アダストリアみとアリーナで行われました。

今回の試合は茨城ロボッツのスポンサーであるJAグループ茨城が主催ということで、JA茨城県厚生連（酒井義法・代表理事理事長）も一緒になり、訪れた方々に抽選で常陸牛、ローズポーク、お米など地元JAの特産品のプレゼントや、Twitter、InstagramなどのSNSへの登録を呼びかけるなど、同グループのPR活動を行いました。

試合は相手チームが2021年度のリーグを制した強豪ということもあり、初日が63-92、2日目は82-87で両日とも負けてしまいましたが、両チームとも素晴らしいプレーを見せ、非常に白熱した戦いとなりました。

また、今回のJAグループ茨城の活動については、茨城ロボッツのサポーターはもちろん、千葉ジェッツのサポーターからも関心が寄せられ、予想以上の成果を感じ取ることができました。

JA茨城県厚生連は、今後もJAグループ茨城の一員としてこのような活動に参画し、地域づくりに貢献していきたいと思えます。



茨城ロボッツの選手とRDT(ロボッツダンスチーム)

(酒井一彦通信員)

看護学生対象のインターンシップを開催

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（井關治和病院長）は、令和4年3月23日、24日に看護学生対象のインターンシップを開催しました。当院看護部部長 阿部徳子のあいさつから始まり、感染対策の講義では、実際にマスクやエプロンの着脱方法などの実技が行われました。

その後、各グループに分かれて病院内の見学が行われ、さまざまな場所で実際に働いている看護師から話を聞きました。病院見学の後は、2～3年目の看護師がグループに加わり座談会が行われ、どのグループも時間ギリギリまで会話が飛び交っていました。参加された看護学生さんにとって貴重な体験になったのではないのでしょうか。



会場全体の様子



感染対策講義(実技)



院内見学(手術室)

(新嶋友梨恵通信員)

特定行為研修修了式を開催

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（井關治和病院長）は、令和4年3月26日に特定行為研修第1期生修了式および実習報告会を開催しました。

この研修は、令和3年4月より始まった研修制度で、当院看護部救急病棟 高野洋介副師長が修了されました。

研修で培った専門知識と技術を発揮し、今後の活躍を期待しています。1年間本当にお疲れ様でした。



修了証授与



報告会の様子



集合写真

(新嶋友梨恵通信員)

県下JA役職員 約8,000名へ「職場接種」を実施

(JA神奈川県厚生連)

JA神奈川県厚生連(高野靖悟・代表理事理事長)は、令和4年3月19日、20日、21日、26日、27日の5日間、横浜会場(JAグループ神奈川ビル)、川崎会場(JAセレサ川崎本店)、相模原会場(相模原協同病院)、伊勢原会場(伊勢原協同病院)にて、県下JA役職員および役職員家族約8,000人へ新型コロナワクチンの職場接種(3回目)を実施しました。



相模原会場(相模原協同病院)



伊勢原会場(伊勢原協同病院)



横浜会場(JAグループ神奈川ビル)

(新嶋友梨恵通信員)

令和5年度新採用事務職員事業説明会を開催

(JA神奈川県厚生連)

JA神奈川県厚生連（高野靖悟・代表理事理事長）では、本所にて令和4年3月23日、25日、29日に令和5年度新採用事務職員事業説明会を開催しました。

先輩職員からのメッセージの時間では、若手職員から入職して良かったことや、一日の仕事の流れなどの発表があり、その後出席者から先輩職員への質疑応答が活発に行われました。実際に働くイメージをつかんでもらうための有意義な時間になったかと思います。



先輩職員からのメッセージ



質疑応答の様子

(新嶋友梨恵通信員)

最新PET-CTを導入しました

(JA富山厚生連・高岡病院)

厚生連高岡病院（寺田光宏病院長）では、令和4年3月に富山県西部において初となるPET-CT撮影装置を導入し、内覧会を開催しました。

近隣エリアで唯一のPET診断施設として、がん診療に必要な画像などの情報を病院間でやり取りするネットワークを築くため、医師を中心に多くの関係者に来ていただきました。

放射線科の絹谷啓子診療部長待遇は、「北陸初や県内初となる先端技術が随所に使われており、撮影時間は10分程で、人工知能（AI）によってCTの被ばくも低減でき患者の負担が少ない。また画像のぶれを自動補正するなど高い精度で、悪性腫瘍の広がりや再発・転移の診断などに活用できる。」と説明しました。

4月よりPETセンターを院内に開設し、院外からの予約受付を始め、通院患者の検査をスタートします。



最新のPET-CT撮影装置

(中西康志通信員)

J A 静岡厚生連看護専門学校 2 校で 入学式を執り行いました

(J A 静岡厚生連・厚生連看護専門学校・するが看護専門学校)

J A 静岡厚生連（荒田庄治・代表理事理事長）では4月初旬、厚生連看護専門学校とするが看護専門学校で入学式を開催し、新入生 72 名が看護師への第1歩を踏み出しました。

荒田庄治代表理事理事長は『病気に悩み苦しんでいる人々に手を差し伸べたい』という優しい気持ちを忘れずに、これからの3年間、基礎となる看護の知識を一生懸命に修得し、全員が看護師国家資格を取得できるよう頑張ってください』と激励しました。

両校の新入生たちは、それぞれの思いを胸に3年後の看護師国家試験の合格を目指す日々がスタートしました。



入学式の様子

(望月俊宏通信員)

JAあいち海部職員組合より、 寄付をいただきました

(JA愛知厚生連・海南病院)

海南病院（奥村明彦病院長）では、3月25日、JAあいち海部職員組合より10万円のご寄付をいただきました。この寄付金は、JAあいち海部の職員が毎月積み立てた会費よりご寄付いただいております。当日は、村上進祐委員長が来院され「地域医療に役立ててほしい、来院される方のために使っていただければ幸いです」と寄付金を奥村病院長に手渡されました。

海南病院ではいただいた寄付金をもとに、車椅子の購入を検討させていただいております。この度は心温まるご支援ありがとうございました。



贈呈式の様子

(井桁千聡通信員)

JA愛知厚生連WEBサイトをリニューアルしました

(JA愛知厚生連)

JA愛知厚生連(宇野修二・代表理事理事長)のWEBサイトを全面リニューアルいたしました。

今回のリニューアルでは、ご覧いただく皆さまが、目的の情報を探しやすい構成を目指してデザインや内容を見直し、新コンテンツの追加も実施しました。新コンテンツの「With Magazine」では、医療・健康・介護に役立つ情報を、皆さんにわかりやすくお届けします。

今後とも、内容の充実を図り、分かりやすくタイムリーな情報を発信してまいります。



With Magazine



TOP ページ <http://www.jaaikosei.or.jp/>

リニューアルしたJA愛知厚生連WEBサイト

(井桁千聡通信員)

中日新聞「リンクト」にJA愛知厚生連の 取り組みが掲載されました

(JA愛知厚生連)

JA愛知厚生連（宇野修二・代表理事理事長）では、2022年3月27日の中日新聞LINKEDに「新型コロナウイルスとの闘い 820日の軌跡」としてJA愛知厚生連の新型コロナウイルス感染症への対応を取り上げていただきました。



中日新聞 LINKED

表紙

- ・ 病院長インタビュー
- ・ 数字で見るJA愛知厚生連の記録（2022年2月末現在）

中面

- ・ これまでの歩み
- ・ 8病院・本部、コロナ総力戦を支えた専門職

裏表紙

- ・ 理事長挨拶
- ・ 私たちの決意



詳細は、本会WEBサイト「With Magazine」で紹介しております。ぜひご覧ください。

<http://www.jaaikosei.or.jp/magazine/>

(井桁千聡通信員)

大阪府への看護師派遣

(JA三重厚生連・鈴鹿中央総合病院)

鈴鹿中央総合病院（森 拓也病院長）では政府の要請を受け、オミクロン株による急激な感染拡大により医療体制が逼迫している大阪府への支援を行うため、臨時の医療施設へ看護師2名を派遣しました。派遣期間は、2月21日から3月6日まで、および3月7日から3月20日までの期間それぞれ1名ずつ派遣を行いました。2名は臨時の医療施設で中等症I以下の患者の看護にあたり、夜勤も行いました。

森 拓也院長は「逼迫した医療の中で役に立ちたいという前向きな気持ちを持ってくれる職員に感謝します。県外の異なった COVID-19 医療状況を実体感することは大きな経験です。今後の感染症対策に役立ててもらいたい。」と労いました。

派遣された職員は「感染管理に興味があり、臨時医療施設の感染対策を経験し、学びに繋がりたいという思いで臨みました。現地では、派遣された日より患者様の受け入れが開始となり、決まっていないことも多く、また臨時施設のため必要物品や薬品も少なく大変でした。しかし、意見を出し合い協力しながら立ち上げを行うことは、学びも多く良い経験になりました」と感想を述べました。



森病院長と大阪府へ派遣された職員

(教来石信彦通信員)

J A伊勢女性部よりマスク 120 箱寄贈

(J A三重厚生連)

令和4年3月17日、J A伊勢女性部（野口佳子部長）は、J A三重厚生連本部（庄山隆裕・代表理事理事長）を訪問し、マスク120箱を寄贈しました。マスクはJ A伊勢女性部が企画した不用品バザーの収益金を活用したもので、長引く新型コロナウイルス感染症における医療従事者の感染リスクを軽減することを目的としています。

当日は、津市のJ A三重ビルで寄贈式が行われ、J A伊勢女性部の野口部長がJ A三重厚生連の庄山理事長にマスクを手渡しました。

J A伊勢女性部の野口部長は、「コロナ禍が続く中、依然として医療従事者は大変な苦勞をされており、何かできることはないか、少しでも励ますことができたらの思いで寄贈を決めました」と話されました。

J A三重厚生連の庄山理事長は、「長引くコロナ禍において医療スタッフの負担は増大しています。皆様からの応援や労いの言葉は何よりも大きな心の支えとなります。今後も役職員一丸となり、安心安全な医療の提供、地域医療への貢献、新型コロナウイルス感染者への対応に尽力していきたい」と謝辞を述べました。寄贈されたマスクは、J A三重厚生連の6病院、1施設へ配布されました。



寄贈時の様子 野口部長(右)よりマスクを受け取る庄山理事長(左)

(教来石信彦通信員)

南島メディカルセンター指定管理基本協定調印式

(JA三重厚生連)

令和4年3月18日南伊勢町南勢庁舎において、JA三重厚生連の庄山理事長、上村南伊勢町長出席のもと、南島メディカルセンター指定管理基本協定調印式が執り行われました。

南島メディカルセンターは、昭和32年7月に南島病院として開設し、地域に根差した医療・介護を行ってきました。施設の老朽化に伴う新築移転を機に、平成24年3月、南伊勢町の公設民営施設として現在地に移転し、以来10年間にわたり、当会が指定管理者を務めてきました。

南伊勢町は、急速な人口減少に加え、高齢化率が50%を超えるなど県内で最も少子高齢化が進む地域です。また、医師をはじめとする医療従事者の不足が慢性的な問題となっています。こうした課題に取り組むため、当会と南伊勢町は、それぞれが運営する、南島メディカルセンター、町立南伊勢病院を加えた四者による協議を重ねてきました。

このたび、令和3年度末を以て、協定期間が満了を迎えることから、あらためて南島メディカルセンターの指定管理を5年間更新することになりました。当会と南伊勢町の取り組みが、過疎地域の医療・介護のモデルケースとなるよう努めて参ります。



調印式の様子

(教来石信彦通信員)

JAグループ兵庫の職域接種3回目実施

(JA兵庫厚生連)

JA兵庫厚生連(福本博之・代表理事会長)では、3月14日からJAグループ兵庫の3回目の新型コロナワクチンの職域接種を始めました。3月から5月にかけて接種を進め、約3,100名が接種する予定です。

初日はJA兵庫西(揖宍統括部:たつの市)で実施し、319名の役職員が接種を受けました。厚生連からは医師2名、看護師6名、接種補助2名、調整案内3名で接種を実施し、従事スタッフも1回目、2回目の職域接種を経験しており、スムーズな対応ができています。

職域接種は、JA・連合会の役職員だけでなく、兵庫県の関係団体の職員や近隣の事業所の従業員など多くの方に接種いただく予定です。接種場所についても農業会館の他、JA兵庫六甲(本店:神戸市北区)、JA兵庫西(揖宍統括部:たつの市)の2か所出張接種します。



接種の様子

(山村祥真通信員)

宮島ボートレース企業団より 医療機器整備に対する寄付をいただきました

(JA広島厚生連)

JA広島厚生連（森脇弘至・代表理事理事長）では令和4年3月19日、宮島ボートレース企業団から構成市である廿日市市と大竹市に所在する基幹病院（JA広島総合病院、広島西医療センター）の医療機器の確保及び充実強化の支援として、寄付金の贈呈が行われました。

JA広島総合病院（石田和史病院長）では、廿日市市で取り組んでいる地域医療拠点整備事業の一環として、新棟増築工事を進めており、あわせて計画している医療機器整備へ寄付金（20億円）をいただきました。

松本企業長から「寄付金を活用し、広島西二次保健医療圏の基幹病院にふさわしい、最新の医療機器等を整備いただくことで、市民により質の高い医療を施すことが可能となり、大いに期待する」とあり、森脇理事長および松原前病院長から「この度の支援により老朽化した医療機器の更新及び高度医療機器の購入に活用し、これにより病院機能を強化させ、地域の皆さまの病気の早期発見や高度な医療の提供につなげていく所存である」と援助に対して感謝の意を伝えました。



左から松本企業長、森脇理事長、松原前病院長

贈呈者 宮島ボートレース企業団
松本企業長（廿日市市長）、入山副企業長（大竹市長）
受贈者 広島県厚生農業協同組合連合会（JA広島総合病院）
森脇理事長、松原前病院長

(中司貴子通信員)

長尾省吾顧問が第42回農協人文化賞を受賞されました

(JA香川厚生連)

JA香川厚生連(田宮隆・代表理事理事長)の長尾省吾顧問が、第42回農協人文化賞の厚生福祉部門を受賞されました。本年1月に東京にて授賞式が予定されておりましたが、時節柄中止となり、3月16日に香川県JAビルにて港義弘経営管理委員会会長より代理授与式が行われました。

受賞に際して、表彰状、記念楯および賞金が授与されましたが、新型コロナウイルス感染症に対応する厚生連職員に感謝の意を述べられ、賞金については厚生連で役立ててほしいと寄付されました。

厚生連では、寄付をいただいた賞金を今後の屋島・滝宮両総合病院の新型コロナウイルス対策に充当することとしています。



港会長から表彰状を受ける長尾顧問

(武内あかね通信員)

「超音波診断装置4台・検診車両1台」受贈

(JA熊本厚生連)

JA熊本厚生連(宮本隆幸・代表理事会長)は、3月23日に超音波診断装置4台と検診車両1台をJA共済連熊本から受贈しました。

JA共済連熊本の「地域・農業活性化積立金」を活用して導入され、組合員・地域住民が健康で安心して暮らせる豊かな地域づくりを目的としています。

今回導入された超音波診断装置は、従来の装置と比べ、鮮明な画像を得ることができ、より精度の高い検査を提供することが可能となります。

毎年、腹部超音波検査を約3万人、乳房超音波検査を約9,000人に実施しており、今後も組合員及び地域住民の健康維持・増進のため、同検診車を積極的に活用しながら健康管理活動に取り組んでいきます。



超音波診断装置



超音波診断装置が搭載された検診車両

(多久弘高通信員)